

様式第2号（第3条、第6条、第7条及び第8条関係）

事業計画書（実績書）

令和8年3月31日

団体名 社会福祉法人綾部市社会福祉協議会

事業の目的 (何のために行う事業なのか など、事業の趣旨や目的を記 入してください。)	電気やガス料金、生活必需品や食料品を含む物価が高騰し生活に大きな影響を与える中で、生活困窮者を支援するために行う「困窮者緊急生活サポート事業」(ライフラインバンク)を安定的に継続するための事業を実施する。
事業の名称	生活困窮者緊急支援事業
事業費 (市補助金)	825,000円 (825,000円)
補助金の使途 (団体活動のどんな事業経費 に補助金が充当されるか記入 してください。)	・米や日持ちするレトルト食品、缶詰等の食料品の購入費。 ・日用品、衣類、寝具、調理用具、暖房器具等の生活用品の購入費。 ・就職面接用のスーツ等の購入費用。 ・食料品や物品を保管するための備品、消耗品、維持管理費用。 ・市民や団体、事業所等に生活困窮者に対する理解を広めるための活動費用、また理解者から物資提供の協力を得る仕組みづくりにかかる費用。フード・ドライブを年1回、フード・パントリーを年1回、ライフラインバンクによる食料提供を年168回実施。 ・本事業に係る人件費。
事業実施期日	令和7年4月1日～令和8年3月31日
事業実施場所	市内一円
事業の概要 (事業の実施方法、内容につ いて記入してください。)	1. 生活困窮者を支援するためのライフラインバンクの整備を進める。 2. 生活困窮者のいばしょと出番づくりのサポーターである「わん★ぴーす」サポーターの集まる場を設け、生活困窮者に対する理解を市民に広め、物品の寄付や早期相談につなげていただく等の協力者や団体を増やす方法を検討し実践する。
補助金の効果(成果) (計画書では期待できる効果 を、実績書では得られた成果 を記入してください。)	1. ライフラインバンクの整備および支援の成果 令和7年度のライフラインバンクによる物資提供は168件。物価高騰が生活困窮者の家計を圧迫している中で、本会の総合相談窓口で生活困窮者からの相談が寄せられており、物資提供による支援は「助かる」との声が非常に多かった。所持金のない人、滞納のため電気や水道が止まっている世帯もあり、次の給料日や年金支給日までの間に家計改善等の相談とセットで物資提供を行うことが自立支援を行う上で有効であり、継続的な相談支援を行うことができた。生活福祉資金の交付や生活保護決定までの間など公的制度につながるまでの間に食料等提供により支援するケースもあった。 食料品や生活用品等を適切に備蓄保管するため、旧社協の家つどい(中山町)と綾部市福祉ホール(川糸町)、綾部市ハート交流センター(新宮町)の保冷庫を保管場所として活用できた。 2. 生活困窮者に対する理解を市民に広め、物品の寄付や早期相談につなげていただく等の協力者や団体を増やすための実践の成果 (1) フード・ドライブ事業を実施した。 名称：物価高騰支援 フード・ドライブ in AYABE「年越し応援プロジェクト」

とき／ところ：

・食料品と日用品の募集：11月17日～11月28日／綾部市ハート交流センター

・食料品と日用品の配布等：12月13日（土）13時30分～15時／あやべ日東精工アリーナ

内容および結果：ライフラインバンクから発展し、歳末たすけあい運動の一環として、市民の皆様などに食品や日用品の提供を呼び掛けて、集まった品物を生活に不安や困難を抱えている方などに提供する取組（フード・ドライブ）を初めて実施した。個人・事業所などから103件、1,958点の食品・日用品と、米243.5kgが寄せられ、個人104世帯、福祉活動団体1団体に提供した。物資の仕分け搬入、当日の運営等に生活困窮サポーター「わん★ぴーす」に協力いただいた。なお、当日は物価高騰緊急生活支援事業（京都府緊急生活支援事業補助金により京都府社協から委託）によって生活福祉資金コロナ特例貸付を申請された方に案内し申込み来場された方へ年越し支援セット（食料・生活必需品）を配布し、相談を希望される方に生活困窮者自立相談支援事業相談員などが後日相談対応した。

成果：生活困窮者の困りごとに対するたすけあい活動が必要であることを地域課題として市民に協力を呼び掛け、多くの協力を得ることができた。生活困窮世帯84世帯に配布し16件の相談につながった。

今後の課題は、大量の物資の保管・整理、物資提供の協力を求めるさらなる周知、仕分け・配布作業の協力者を求める周知、生活困窮世帯への周知、早期相談につなげる仕組みづくり。生活困窮者の相談や就労準備事業の啓発、企業への周知啓発が課題。

（2）フード・パントリー（もぐもぐレスキュー）を実施した。

とき／ところ：8月30日（土）13時30分～14時／あやべ日東精工アリーナ

内容：ライフラインバンクから発展する形で実施した。開催目的は以下の4つ。①生活困窮者の困りごとに対して市民に関心をもってもらう、②食料品や日用品の提供など個人や団体が協力しやすい仕組みをつくる、③生活困窮者の困りごとが複雑化する前に早期の相談につながる機会をつくる、④取組に協力する個人・団体と生活困窮世帯の参加によりフードロスの軽減等に貢献する。結果、生活困窮者自立支援事業で相談支援をしている生活困窮世帯へ案内、広報紙「あやべの社協」等で告知した。

成果：生活困窮世帯63世帯に配布し10件の相談につながった。

（3）理解啓発の取組

①啓発：京都府立綾部高等学校の3年生担当の学年主任の先生に生活福祉資金とフード・ドライブの活動報告を行った。良い取り組みとして聞いていただいた。（11月17日）

②啓発：フード・ドライブに協力していただいた12の企業・団体宛にお礼状を発行・持参し活動結果を報告し企業との接点づくりを行った。就労体験の場の提供の申し出などいただいた。（12月～1月）

③啓発：第43回綾部市社会福祉大会（パネルディスカッションのパネラーとして報告）

とき／ところ：2月10日／あやテラス

テーマ：「困ったときは支え合ったらいいやん～生活困窮者の相談支援とフード・ドライブの現場から～」

内容：生活困窮者の困りごとと支援状況、個人・団体の協力によりライフラインバンクやフード・ドライブ等の取組みが実施できたこと、今後の課題について伝えた。

成果：ボランティアの生の声をもとに活動報告を伝えることができた。食料品や日用品を提供したいという反響があった。

収支予算書（計算書）

令和 8 年 3 月 3 1 日

団体名 社会福祉法人綾部市社会福祉協議会

(単位 円)

収入の部	区 分	予算額	収入済額	明 細
	市 補 助 金	8 2 5 , 0 0 0	8 2 5 , 0 0 0	
	社協財源	0	0	
	合 計	8 2 5 , 0 0 0	8 2 5 , 0 0 0	
支出の部	区 分	予算額	支出済額	明 細
	人 件 費	6 0 0 , 0 0 0	2 5 9 , 5 0 7	担当職員の給与の一部
	事 業 費	2 2 5 , 0 0 0	5 6 5 , 4 9 3	消耗品費 37,424 印刷製本費 344,540 車両費 21,758 修繕費 9,000 手数料支出 1,900 損害保険料 46,200 燃料費 67,528 水道光熱費 37,143
	合 計	8 2 5 , 0 0 0	8 2 5 , 0 0 0	
	差 引	0	0	